

6/26 出エジプト 17:1-7 「心を頑なにしてはならない」

阿部 起士師（自由ヶ丘めぐみ教会）

大いなる奇跡の出エジプト後、イスラエル 200 万人はシンの荒野へ入って行き、食べ物がないと不平を言いました。主は、朝には天からのパン、マナを降らせ、200 万人を十分食べさせ、夕方にはうずらでした。主は荒野で、イスラエルを養われたのです。しかし、17 章のレフィディムでは水がありませんでした。さらにアマレク軍が出てきてイスラエルを襲います。次から次へと問題が来ました。私たちの人生も、荒野を旅しているようです。ある人は出エジプト、主イエス様による救いを経験しています。私たちの罪のために神であるイエス様が死んで下さいました。また主は死人の中から 3 日目によみがえって下さいました。死は打ち破られ、罪はすべて贖われています。大いなる奇跡を経験しました。そして天の御国へ向かう旅は始まりました。しかしそこは荒野でした。

イスラエルはモーセと争い、水がない、私たちを殺すために連れてきたのかと。モーセを石で打ち殺そうとまでしました。「メリバ」＝争いの地です。主は怒らず、モーセに命じてあの杖で岩を打て、と命じました。岩から水が出て、民はそれを飲むと。水はおそらく滝のように吹き出したでしょう。「マサ」＝試みの地という意味です。民は「主は私たちの中におられるのか、おられないのか」と言っ、今まで神様がして下さった奇跡のことを、また神様の約束をまるで憶えていないかのように振る舞った。神様は決して嘘をつかない方。それなのに、主を信じないというのです。主はいつも多くのことをして下さるのに、主を信じず、主を試みました。

詩篇 95 篇には「メリバでのように、荒野のマサでの日のように、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」と書かれています。頑なに心というのは、心を固くし、主のみことばを信じるのはやめた。反逆することにしたというのです。しかし主に素直にその必要を願うのであれば、主は喜んで与えて下さるのに、それはわかっているけれど、私たちはこの失敗を繰り返しがちです。

私が 23 歳の時、卒業する日が近づく中でこの詩篇 95 篇のみことばが毎日、何度も何度も心に響いてきました。主のみことばに戸惑いました。卒業後、就職先へ赴く前の礼拝で、主のみ声がありました。「わたしはあなたのために命を捨てた。あなたは、わたしのために何をするのだろうか」と。私は頑なで、素直でなく、従うことは無縁な不信仰な人間だと知っておられる主は、「今日もしみ声を聞くなら、あのメリバでのように、荒野のマサでのように心を頑なにしてはならない」というみ言葉を聞かせて下さったのです。その日、私をささげますと真剣に祈りました。

私たちは荒野を旅しています。「心を頑なにしてはならない」主のみことばは、今日も静かに、マナのように天から降っているのです。